

入域観光客統計概況

－平成16年7月分－

沖縄県観光リゾート局

7月の入域観光客数は445,400人。前年同月比は△1.3% (△5,900人)で、同月の過去2番目の記録となった。

1月～7月までの入域観光客数は2,942,100人。前年同期比は+5.6%(+156,900人)となった。

1. 空海路別入域状況

空路：433,600人 前年同月比 (△4,100人 △0.9%)
海路：11,800人 前年同月比 (△1,800人 △13.2%)

2. 主要航路別入域状況

東京：209,000人 前年同月比 (△1,700人 △0.8%) 構成比46.9%
阪神：84,300人 前年同月比 (△800人 △0.9%) 構成比18.9%
福岡：54,900人 前年同月比 (+900人 +1.7%) 構成比12.3%
名古屋：33,600人 前年同月比 (△2,700人 △7.4%) 構成比7.5%

3. 概況と見通し

7月の入域観光客数の概況としては、国内客については、海外旅行との競合や主要航路である阪神、名古屋航路の提供座席数の減少、オーバースタッキングへの慎重な対応などの要因により前年同月の実績を下回った（平成15年同月は対14年同月比+13.8%の大幅増）。

外国客については、高雄－那覇間のプログラムチャーター便の運航や台北－那覇間の臨時便の運航等により提供座席数が増加したこと、世界武道祭の開催などの理由により昨年の実績を上回った。

以上のことから、7月の観光客数は前年同月の実績を下回り、同月の過去2番目の記録となった。

今後の見通しとしては、国内客については、8月中旬から名古屋－石垣間にチャーター便が運航していることや、同月下旬には平成16年度国民体育大会九州ブロック秋期大会の開催が予定されていること、10月から12月にかけての修学旅行の予約状況が前年の実績を上回っていること等により増加が見込まれる。

外国客については、空路においては、高雄－那覇間のプログラムチャーター便や台北－那覇間の臨時便の運航により入域客が増加することが予想される。

この結果、国内客、外国客ともに増加が見込まれ、入域観光客数は当面は好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 上原
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

○昨年は海の日を含めた3連休が夏休み期間中であったが、今年は夏休み前であったことや、価格も高く設定されていたことから昨年の実績を下回ることとなったが、夏の旅行商品は全体的に好調に推移しており、8月は対前年比10%増となる見通しである。

大阪事務所 (阪神地区)

○海外旅行需要が回復し、海外旅行へのシフトが見られたことにより入域減となった。

○離島人気の継続や修学旅行生の増加などにより、今後は増加傾向で推移するものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

○九州・福岡の旅行市場の概況としては、ハワイやグアムをはじめ、旅行需要の回復が見られる中国や東南アジア方面、一躍ブームとなった韓国などへの海外旅行が増加する傾向にある。

○そのような状況の中、景気の回復による旅行市場全体の活性化が沖縄への入域にも好影響を与えたことや、メディアへの露出効果などの要因により入域増となった。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

○航空機の提供座席数の減少や、航空運賃の下限値の値上がりの影響などにより入域減となった。

○8月は家族旅行などの予約状況が順調であり、この傾向は沖縄に限らず北海道や海外方面にも見られることから、景気の回復感が見られる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

○道内の旅行需要の冷え込みの影響からか、7月の沖縄への旅行者は減少したようであるが、8月は概ね前年並みとなる予定である。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

○空路においては、高雄から9便、台北から7便の計16便のプログラムチャーター便が運航されたことにより入域観光客の大幅な増加となった。

○海路においては、定期クルーズ船が好調な販売を維持している。

韓国事務所 (韓国地区)

○7月の韓国からの出国者は約82万9千人となり、対前年同期比22.4%増加しているが、主な旅行先はヨーロッパや太平洋地域及び中国や東南アジア地域であり、沖縄は他地域と比べて料金面での競争力が弱い。

○沖縄への送客はパッケージによる送客が145人、ハネムーンは4人となっている (ソウル所在主要旅行社30社の実績による)。